

目次

I どう行われてきたか……………一

太陽の原理 原爆外交 秘密がなくなった 絶対兵器か 十二名の米国の科学者 アインシュタインと水爆主義者 英国の原爆 原
子力の平和利用 朝鮮戦争と戦術原爆 ソ連の実用水爆と米国のニ
ー・ルック戦略 「死の灰」と反対運動 俊鶴丸調査以後 ラッセ
ル声明 一九五六年のビキニ空中爆発 英国のクリスマス島実験
シュワイツァーとリビー

II どう考えたらいいか……………二六

科学的とは 許容量とは無害な量か 有害をがまんする量 一般人
と専門家 耐乏生活的許容量 証明されるのは人類が減びた時 現
在の医学による判定 平年作まで下げられた 反対運動の効果 実
験登録制 ソ連の実験と松下特使 大国と小国 無警告実験 実
験は探知できるか リビー博士の科学 赤痢患者の場合 科学の範
囲

Ⅱ どのようにして探知するか…………… 吾

秘密で実験できるか 微気圧計 津波 流跡線 超高空爆発の場
合 きれいな水爆

Ⅳ 「死の灰」はつくられる…………… 空

ビキニ水爆とストローズ発表 百マイル離れたところで 第五福竜丸
の被爆 火山爆発に近い影響力 異常な偏光現象 米科学アカデ
ミーの報告書 稲作への影響 地震との比較 核分裂生成物 空
中爆発と竜巻 降灰予報はほとんどはずれる 危険区域の訂正 塵
の落下 局所降灰・対流圏降灰・成層圏降灰 放射能戦争

Ⅴ 汚される地球…………… 六

放射能塵のまわり方 米国の検索組織 原爆戦下の許容量 空気と
雨の放射能 半減期 爆発日の推定 ネヴァダの灰の道 低気圧
と高気圧 グロス・カウント 「死の灰」の恐ろしさの条件 スト
ロンチウム90はカウント数の何%か 成層圏降灰の影響 温帯地方
地球上一様に降るか 一九七〇年

Ⅶ 汚される食物…………… 二七

海水と魚の汚染 プランクトンの汚染 第二次調査の場合 「食物
順位」は救いにならない 廃棄処分の基準 有害の程度 生物はそ
れを区別できない カルシウムの摂り方 日本人と米と魚 特定の
ルート 日本人の骨 母親と小児 毒を薄める思想 セシウムは
肉につく

VII 「許容量」か「警告量」か 一四

最大許容量の変化 職業人と一般人 レントゲンという単位 細胞
と放射線 人間の身体の中の細胞にたいしては レントゲンを扱う医
者たち 寿命がちぢまる 白血病 天然の放射線 突然変異はす
べて有害である 全体的に見た場合には 二百万人のカタワ 許容
量でなく、警告量

VIII リビー博士批判 一五

宇宙線との比較 別の因子 全人類の頭上にかぶさるムラ

IX 原水爆の構造と理論 一七

A 原爆とはどういうものか 一七
一定量のウラニウム 濃縮ウラニウムのボール 中性子をネズミ算式

にふやす まわりから押えつけて 高くつく戦術原爆 原爆の引き
金 原爆が爆発すると

B 水爆とはどういうものか……………二九二

軽い方の原子核を融合さす 地球の上に太陽を 広島型の百五十倍の
エネルギー 「普通に」 きたない水爆 ソ連のリチウム水爆 米国の
天然ウラニウム水爆 焼夷効果 みな殺し戦争 やたらにかさば
る「きれいな水爆」

換算表……………三二

あとがき……………三三

追記 (一九六六年七月)……………三四

